

平成27年度 学年[ 2年 ] 教科[ 地理・歴史 ]

科目・分野		週時間数	コース	クラス	担当者
世界史B		2	文理コース	ABC	菅沼 祐子
目 標		①過去を知ることにより、現代の国際社会の理解を深める。 ②中国を中心とした東アジア文化、西アジアから起こったイスラーム文化、ヨーロッパ文化のそれぞれの特徴を理解する。 ③それぞれの文化がどのように関わり合ってきたか、そして日本とどんな関連があったのかを理解する。			
大切に育てたいもの		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
		授業で学んだことに興味を抱き、自分でより深く知ろうとする態度。	多様な文化を知ることによって異文化を尊重できる国際感覚。	資料集の多用・積極的な学習活動を通じての視覚による理解。	単なる暗記ではなく、「どうしてそうなったのか」を考えることによる深い理解。
学期	考査	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
一学期	中間	第4章イスラーム世界の形成と発展 第5章ヨーロッパ世界の形成と発展 ・西ヨーロッパ世界		・世界的宗教であるイスラーム教について、偏った見方をしない正しい見識を身に着ける。 ・奴隷王朝以降のインドのイスラーム化への過程を考察させ、ヒンドゥー勢力との確執・融合の歴史を理解する。 ・十字軍やイベリア半島における国土回復運動などでは、ヨーロッパ史と関連した地中海世界の変革という巨視的な学習の必要性を認識する。 ・ゲルマン民族の移動の歴史的意義と、その後フランク王国が台頭した宗教的・政治的理由を理解する。	
	期末	・東ヨーロッパ世界 ・中世世界の変容 第6章内陸アジア世界・東アジア世界の展開		・ビザンツ帝国の独自性を文化・経済・政治の多方面から考察させるとともに、ギリシア正教を直接支配したことが重要であることを知る。 ・教会が中世の人々の生活全般に深く関わっていたことを理解させ、また修道院運動の多面的な意義を考察する。 ・草原の道、オアシスの道、海の道の変遷を概観する。 ・モンゴル帝国成立による東西文化交流の意義を理解し、元におけるカトリック、イスラーム教の歴史的意義を知る。 ・大航海時代と、共に明・清を中心としたアジア貿易に及ぼした影響を知る。	
二学期	中間	第7章アジア諸地域の繁栄		・ティムール朝、オスマン帝国、サファヴィー朝など連立するイスラーム王朝の特徴とその派閥の違いを把握する。 ・ムガル帝国の弱体化を後のイギリス支配に結びつけて理解する。 ・大航海時代が、ルネサンスや宗教改革とほぼ同時期に展開されたことを確認する。 ・大航海時代以降拡大した、スペインを中心とする海外領土獲得の動きを確認し、当初各国が取り入れた絶対主義と、なぜ国王が有産市民との提携を必要としたかについて考察する。 ・重商主義政策が17世紀危機に対応する経済政策であったことを理解する。 ・各列強が行った植民地経営の違いを認識する。	
	期末	第8章近世ヨーロッパ世界の形成			
三学期	期末	第9章近世ヨーロッパ世界の展開 第10章近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立			
評 価 の 方 法		定期テスト、小テスト、週末課題・レポートなどの提出物			
学 習 活 動 の 特 徴		教師の講義を軸に、質疑応答を多用する。学習活動として図を多用し、視覚による理解を深める。世界と日本を比較し、現代に根付く文化・伝統に自ら気付く授業が目標。			
授 業 の 形 態		一斉授業、講義形式／協同学習・ペアワーク			
使 用 教 科 書		山川出版社『詳説世界史』			
使 用 副 教 材		帝国書院『最新世界史図説タペストリー』、山川出版社『世界史B用語集』			
用 意 す る も の		授業用ノート、課題提出用ノート(選抜クラスのみ用意)			
備 考		C組(選抜クラス)はセンター即応・各模試に対応した演習問題への取り組みを強化して行う。			